（２）地図の読み方

①空間デザインで利用する地図

地図は、一枚の平面に高さの情報を始め、多様な情報を詰め込んだ＜折り畳める土地の立体模型＞というようなもので、空間のデザインとは切っても切れない関係で、十分に使いこなせるようになる必要がある。空間のデザイン作業の中で良く使われる種類は、次のようなものがある。

（資料－１参照　航空測量図と現地測量図　出典：鎌倉市）

・分県地図（１：１０，０００～；国土地理院）
　－計画地の位置確認や交通：関連施設の分布状況などマクロ的解析に使う。

・航空測量図（１：２，５００・自治体発行～１：１，０００）
　－小規模な計画時の配置・周辺検討や大規模な計画時には、敷地計画の原案検討に使用。

・現地測量図（実測図・～１：５００）
　－精度が必要になる基本設計や実施設計に使用する。

②縮尺（スケール）の感覚

地図は現実の模型であるから、＜図面の縮尺＞ということがまず一番の重要な情報である。縮尺が倍になれば、面積は４倍になるわけで常に縮尺を確かめながら作業する習慣が欲しい。

また、デザインの対象、計画のステージによって検討する図面の縮尺はまちまちであるが、どのような縮尺においても大きさ・広さの感覚を間違えずに置き換えることの出来る感覚が大切となる。

そのためには、わかりやすい空間の指標、例えば駐車帯（２，５×５，０ｍ）とか車道幅員（一車線２，５～３，０ｍ）などを利用して、感覚を磨くことが効果的である。

③地図記号

空間デザインで利用する地図には次のような情報が含まれており、表示記号は概ねこのようになっている。

・方位（オリエンテーション）：北矢印表示（原則的に北が上、地名表示も北そろえ）

・縮尺（スケール）：縮尺比率、棒状スケール表示（縮尺変換のときに間違えないためにも必要）

・高さ：標高表示（基準海水面よりの高さｍ表示、通常ｃｍまで表示）
　等高線（コンタ）表示（スケールにより１ｍ、２ｍ、５ｍ、１０ｍ単位のコンタがある。）

・位置情報：座標値表示（国が定めた座標系よりのＸＹ方向距離・ｋｍ表示）
　方眼表示（５００ｍ角、２５０ｍ角）

・土地利用（植生）情報：面的な利用の状況情報

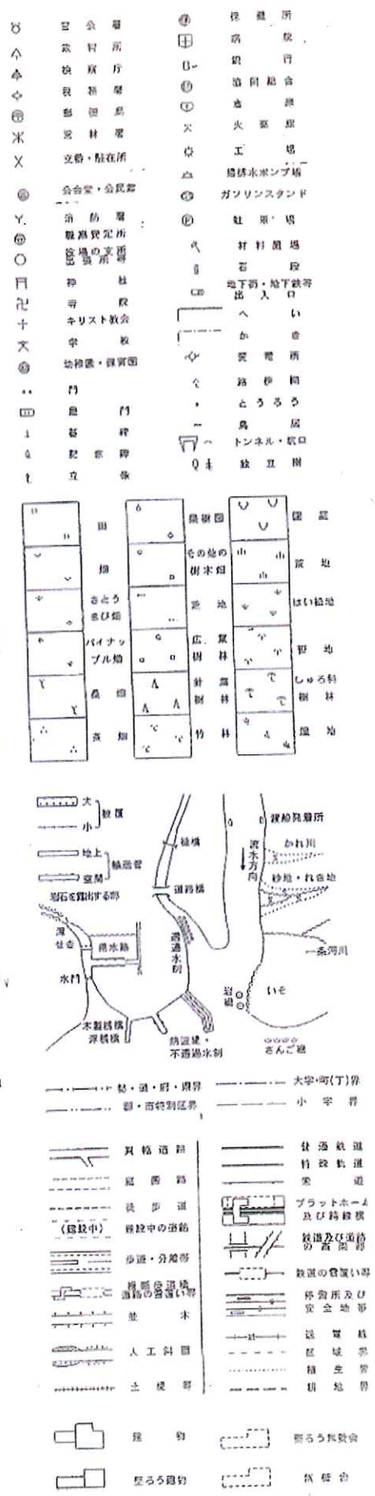
（資料－２参照　地図の記号：土地利用情報　出典：鎌倉市）

・道路・境界情報：線的な利用状況の情報

（資料－３参照　地図の記号－道路・境界情報　出典：鎌倉市）

・施設情報：点的な利用状況の情報

（資料－４参照　地図の記号－施設情報　出典：鎌倉市）



④等高線（コンタ）a等高線（コンタ）の読み方

イ、等高線とは、同一の高さに結んだ線をいう

（資料－５イ）

ロ、等高線の各々の間隔が狭くなるときは、急傾斜を、大きく広がるときは、緩傾斜を表す。

（資料－５ロ）

ハ、等高線は一定方向の変化点をもっており、画割線といって、尾根筋（分水嶺）や谷筋を表している。

（資料－５ハ）

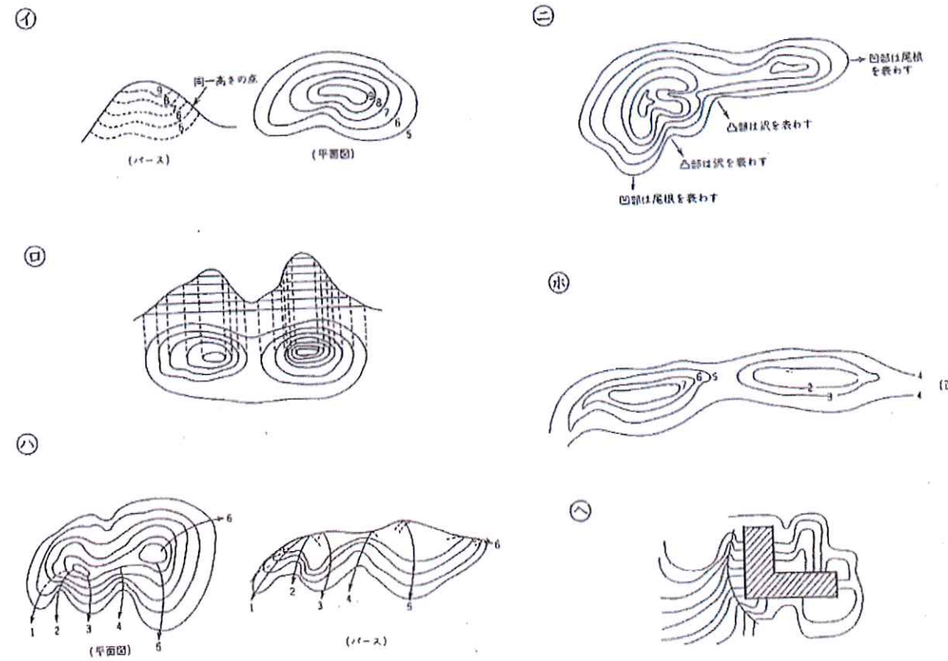
ニ、等高線は必ず円環状に結ばれ、折れ線状に表現されることは、原則としてない。

(資料－５ニ)

ホ、窪地のケースがあるので高さ表示を良く読む。

（資料－５ホ）

ヘ、等高線は構築物に接するとき原則として直角に交わる。



b、法面表示

切り立った崖地とか人工的に作った傾斜地（法面）などは、等高線で表示仕切れない場合が多い。その場合、各種の法面表示で代用する。